

平成23年度川崎区区民会議第4回高齢者部会

日 時：平成23年9月22日（木）18時30分～20時30分

場 所：川崎区役所7階第2会議室

出席者(敬称略)

(1) 委員 5人

星川孝宜、赤間靖夫、猪熊俊夫、富田順人、吉野智佐雄

1. 開会

(事務局)

<会議の成立、会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の遵守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者の紹介>

(1) 「コミュニティバスの導入」に関する区民意識の把握について

(星川部会長)

お手元の次第に沿いまして進めたいと思います。まずは、次第を見ていただきたい。

今回議題については、「コミュニティバスの導入」に関する区民意識の把握についてということで、アンケート調査をどういう形でやりましょうかという事についての検討です。

本日は、第4回ということで臨時に開催いたしました。資料としては、前回の会議資料の中に猪熊委員の方から提出頂いたアンケート票、TMOの方で4年前からやった資料を入れてあります。これをベースにということだったので、猪熊委員からの説明をお願いします。

(猪熊委員)

今迄会議の中でお話をしてきましたが、市民意識を大切にしなければいけないことで、皆さんがどのようにシャトルバスを考えているのかということアンケート調査をやったらどうかということで作ったものです。どのようなアンケート調査をしたらよいのか分からなかったもので、ここに示したアンケート内容しか思いつきませんでした。シャトルバスの運行ができるような形のものですアンケートを作って設問していくような手法もあろうかと思いますが、皆さんのお手を借りながら作っていきたいと思っています。

(星川部会長)

前回、第3回高齢者部会に富田委員がご欠席だったので、簡単にご説明いたします。ウォーキングマップの方は、あらかじめ決着ということで、要望をお伝えしてお願いしました。こちらのコミュニティバスの方は、猪熊委員からお話がありましたように区民がどれくらい要望しているかという声を背景にして進めていきたいということで、アンケートを取ることに

なりました。アンケートといっても委員の持っているものがいろいろあると集約するのが難しいもので、今日やることになりました。お手元の下にP24の調査構成：方法が一番上にある資料がTMOでアンケートされたものだそうです。

今日は、アンケートの調査票のアウトラインぐらいまでつめた方が良いという理解でよろしいですか。

(金子課長)

前回の中で、全体会議にどの程度まで報告できるかという視点で考えた時に、もう一度部会をやらないと間に合わないということでした。

(星川部会長)

全体会議が、10月4日(火)に行うことが決まっていて、この第3期の全体会議はあと来年の3月の最終報告の時を入れて2回しかありません。ですからこの部会もあと半年の中で何をどこまでするか、話し合いを進めていく中で、アンケートだけはやりましょうねということなのですが。全体会議は、区民会議の委員全員にこんな形でアンケートをやることを示さないままアンケートを進めるわけにいかないの、アンケートのきちんとしたものが出せれば一番良いですけど、ある程度委員の皆さんがご理解いただけるような、全体会議で討議が出来る程度のものには仕上げたいと思います。前回お配りした資料をみますと最初のページがP24ですが、調査対象としてあくまでもTMOが作ったもので、主な目的としては、川崎駅前を中心市街地の活性化として回遊性を高めることで、我々の部会は、高齢者のサポートからエリアもかなり絞った住民調査とこの地域に住んでいる従業者向けの調査と来街者の調査で利用想定者を対象に調査をおこなった。どういう方を対象にアンケートをするのかも議論の1つだと思います。アンケートの中味としては、3つのタイプの対象者に対して同じものをお配りしたようです。

P27からP28の2ページにまたがって、質問の1~5までを参考にしながら区民会議提案のコミュニティバスには、こんな提案が必要なのではというご意見を頂けたらと思います。

(上野副区長)

アンケートを取るとしたらルートのある程度決めて取らなければご意見が出にくいのではとお話をさせていただきました。その辺も議論いただいて、どこのルートで想定をするのかシャトルバスということなのか、今の路線バスをルート変更するということなのか。

(猪熊委員)

とりあえずは、皆さん分かりやすいようにシャトルバス。川崎駅の西口と東口が東海道線で分断をされている。川崎駅から東側まで来るのに相当の距離を歩かなきゃならない。自転車も明治製菓の坂を巡ってくるのは、非常に危険だということもあって、高齢者の方が川崎市立病院に行くにも大変である。東側の方が西口から先に行くのに相当の距離を歩いて行か

なければならぬので、段々と高齢者の方が遠くに出にくくなっていきます。まず、西口と東口を結び、富士見球場まで結ぶようなシャトルバス的なもの出来ないだろうか。交通体系をある程度高齢者向けに引っ張っていくことでもう少し違った川崎区が出来るのではないか。現在皆さんのご意見を頂きながらアンケートをとろうという所までいきました。

(星川部会長)

資料3の方は、前回提出頂いた委員の方から説明を簡単につけています。事務局からルートが見れる形で、アンケートを取られた方がいいのではないかと。猪熊委員からシャトルバスという提案が出ましたが、コミュニティバスの方が言葉としては適切ですよねということで落ち着いています。路線バスと新たに設置するコミュニティバスという色分けにしたいと思います。議論の中で路線バスをどうするかという話は出ていない。路線バスの方向を動かしてというのが全体会議で出たこともあります。高齢者部会の中ではコミュニティバスを走らせるということによろしいですか。

(猪熊委員)

値段にいつもこだわるのですが、TMOで出たアンケート調査では、値段を300円とうたっているのですが、高くなると利用者がものすごく減ってしまう。100円にしたら利用者が増えてくるのではないですか。高齢者の所得という事も考えると100円で回遊できるバスが適当ではないかということで、ワンコインバスという物を出しました。今の路線バスが200円ですので合わなくなってしまいます。

(星川部会長)

出張で地方都市にいくと路線バスでもワンコインが多い。行政サイドが運営している。値段だけですと公共交通の方が常に高いかということとそういうわけでもないと思います。

(猪熊委員)

出来れば、路線を変えて、西口から東口へ入ってくる経路は、ゼロなので、そこを作りながら川崎市立病院・川崎球場・大通りにでて、教文の前あるいは、川崎市役所前でいいから停めてほしい。今のバスは停留所から停留所まで一区間が距離が長いと思うので、停まる一区間の距離を狭めて300mぐらいにしてバス停がほしいなと思います。そうするとコミュニティバスといった形の中で走らすことが大切かなと思います。横線のつながりもうまくいくのではないのでしょうか。

(星川部会長)

路線バスかコミュニティバスかという意味では、区民会議で取りかかろうとしているのはコミュニティバスでよろしいですね。資料3の各委員の意見を踏まえながらTMOが作られたアンケートのやり方をベースにしながら資料説明・確認をいたします。(資料ルート説明)

(猪熊委員)

先日、藤子・F・不二雄ミュージアムに行った時、シャトルバスに乗ったのですが、あれは、小さいですが、あんな形のバスが走ると美観的にも良いと思います。

(星川部会長)

あれは、何人乗りですか。

(猪熊委員)

あれは、18～20人ぐらいだと思います。

(金子課長)

バスは、2パターンあるみたいです。

(星川部会長)

TMOのアンケートでは、40人乗れるバスを設定してますよね。

P27～P28のアンケート票の内容についての説明。

我々の部会は、高齢者部会なので、このバスが運行した時に外出機会が増えますかというところは、大事なポイントになるかと思います。あとは、コミュニティバスの設定条件が変更された時についての質問もしている。

全体会議に出す資料として、どの辺りまで絞り込むかという事です。

P29以降は、集計方法と結果です。

調査対象をどのような人にするかとアンケートの中味を決めたいと思います。ルートというお話がございましたが、区民会議の部会なり、全体会議で出ているのは、JRの駅周辺の話と田島地区から大師地区という話も出ています。ただ、利便性を高めるという意味では、川崎駅を中心に埋立地に向かって放射線状にバスが走っています。それを横に走るようなバスルートが必要ですよという話があり、小田地区から大師地区に向かうルートも必要ではないかというご意見も根強くあると思います。今回のアンケートの中でこれに絞り込むというのもあるだろうし、両方聞くというのもあると思います。先程のTMOのルートで良いのかどうかという話です

ルートを決めるのが一番最初に大事だと思います。

(猪熊委員)

これからの川崎駅西口を考えた時に幸病院が大きくなっているのと東芝が7,000人となってくると西口ルートというのは、必要だと思います。小田地区と大師地区を結ぶルートも必要だと思いますが、皆さんの意見を聞いてみて大切なルートだと思いましたが、いっぺんに

出来ないなという気がしました。今は、JR川崎駅周辺と西口を進めたいと思います。コミュニティバスと高齢者を結び付けていきたいと思います。

(富田委員)

私は、初めから分けないで、大師—田島—川崎駅—西口も一緒にやったほうが良いと思います。最初から重要なところは、やった方が良いのではないかと考えます。

(星川部会長)

川崎駅周辺も田島地区から大師地区のバスルートも併せて一つにした方がよいということですね。他の委員さんは、どうですか。

(吉野委員)

区民会議の高齢者部会なので、高齢者がどこにお住まいでも、そのかたの出歩きやすいようにするというコミュニティバスが必要だと思います。ただ、川崎駅周辺も田島地区から大師地区のバスルートを網羅すると非常に大がかりな事になってしまうので、早く実現しようと思ったら、大師地区から市立病院まで、大変そうですよという所からまずやった方が良いでしょう。ルートを全部一筆書きで書かなくてもAコース・Bコース・Cコース作ってもいいのではないかと。例えば、猪熊委員のはAコースとか。地域の高齢者の通院とか福祉関係に重点を置いたコースをBとするとかの方が取り組みやすいのではないのでしょうか。

(猪熊委員)

吉祥寺の例をいうと9通りとか10通りとかでているのですが。そこまでつなげられるのかなと私も思います。

(吉野委員)

猪熊委員のまとめたルートは、相当欲張っていると思います。これをさらに小田とか大師につなげるのは現実論としてちょっと大変かも。100円じゃ動かないだろうと思います。

(猪熊委員)

100円という事も1つの大事な要素になると思います。

(吉野委員)

高齢者パスの使い方をみていると定期券を買ってしまっている人と100円払っている人と大体半々です。100円というのは、誰でも利用しやすい金額です。

(猪熊委員)

なるべく車を細い道に入れていきたいと思います。各町内会を周れるような細かい道に入れていきたいと思います。

(吉野委員)

区民会議の高齢者部会だから、猪熊委員がおっしゃったところを重点的に進めていったらどうですか。こちらが成功すればTMOでもまた出来そうですね。

(猪熊委員)

家から産業文化会館に行く場合が、最も不便です。

(吉野委員)

区内の横移動でいうと。産業文化会館と市立病院へ行くには縦串しかないと思います。

(猪熊委員)

そういう事も考えたシャトルバスですから、区民会議の中で高齢者の方々にもプラスになるのか。お子さんがいる主婦の方にもプラスになるようなルート選びも大切かなと思います。

(吉野委員)

桜本協同病院とか太田病院とか臨港病院とか人が多いので、病院ルートを走ってほしい。お年寄りには助かると思います。

(猪熊委員)

市役所通りには、税務署もあったり、法務局もあったり、その時に高齢者の方が寄るときにそういう所にも目を置かなければいけないと思います。

(吉野委員)

川崎区は、教育文化会館を中心に官公庁がわりとまとまっています。
将来的にTMOネットワークが絡まれば拡大すればよいと思います。

(猪熊委員)

拡大できれば、富田委員がいったような大きな回遊バスを入れれば良いと思います。それで停留所区間を短くすればよい。どこかで区切りをつけて提案していかないと不便になってしまうのではないのでしょうか。

(吉野委員)

小田なら小田だけでもいいから一度走らせてそれが成功したら普及しやすいと思います。

(星川部会長)

吉野委員が言われたのは、いろんなルートが考えられます。ただ、最初の1歩は、どこにしますかというのをこの会議で決めて全体会議へ出したい。吉祥寺のムーバスも駅周辺の巡回が出来て、便利だと気が付いて、全体に広がっていった。そういう意味では1つ作ったら終わりではなくて、利用者にとって利便性が高くて採算がとれれば、好事例として出来る。今までの議論の中で出てきたルートは、駅周辺と小田から大師区間のルートが出ていますので、この2つをとりあえず全体会議でみせるか、どちらかに絞るかという選択ができます。駅周辺も西口がどんどん開発されてきて、幸病院の話もございましたが、必要性が高くなるという話と区民会議という意識になった時にこれは、幸区と川崎区にまたがる案件だなと思います。区民会議が旗を振って協議会を立ち上げた時に幸区の陣営が入ってくるのかなという心配も若干あります。商業者の集まりであれば、仕切りはありませんが。利用者の便で考えれば、西口も入れて考える。高齢者は、大前提として入っています。

(猪熊委員)

幸区を入れた場合には、幸区の区民会議にも図っていかないといけないのではないかと思います。

(吉野委員)

ルートとして出来る実現性の一番高いところからやってみましょうの気持ちが強いです。

(星川部会長)

第3期の区民会議で結論を出すのは出来ないなので、いずれにしても第三者機関で検討しなければならない事だと思いますので、アンケートを取る為の材料としてあらゆるルートを決める必要があります。1つは、駅周辺の川崎病院なり徹ルートで、小田から大師のルートはどうしますか。

(富田委員)

私は、東口から西口は、既にTMOで調査をしているので、いらないのではないのでしょうか。

(猪熊委員)

どうしても商業者の分野が結構多いので、アンケートを直さないといけないのではないのでしょうか。

(星川部会長)

今のお話ですと西口を外して川崎区でアンケートをとるのが1つ。小田から大師もアンケートの中に入れたほうがいいのではないのでしょうか。

(富田委員)

小田から大師方面とと JR の川崎駅周辺についてアンケートをとってみたいと思います。

(星川部会長)

ルートとしては、田島から大師と駅周辺東口を落として質問をする。東口のルートですが、P26 の図面で西口もおとした図面で良いのかどうか。

(富田委員)

東口と西口がセットだからこれで良いと思うが、西口をはずしてしまうと現状の路線バスのルートと変わらなくなると思います。総会で路線バスの変更案を進めた方が早いのではないですかという意見がございましたよね。我々は、コミュニティバスを進めるということで、路線バスルート変更は辞めたという理屈づけをきちんとしておく必要があると思います。猪熊委員のは、東西セットだから良いと思っています。川崎区だけにすると現在の市営バス・臨港バスのルートと市立病院へは、駅からシャトルバスですよね。これでは、ルートが目新しくないので、ルートの的にはなるほど、便利になるねとは思えない。

(猪熊委員)

ルートは、西口が無くなった場合は、新川通りをまっすぐ走って行って、新川通りから市立病院へ一番先の信号を右に曲がって川崎球場の裏に出ます。まっすぐ行って、富士見町の信号を左へ入って労働会館の前を通過して、富士見公園前。

(上野副区長)

とりあえずは、アンケートを取るためのものということで。路線をどこまでにするかという事は、今回は厳しいのではないのでしょうか。先程出た案で、田島から大師と駅周辺のところで2つのルートのアンケートをとる方向で全大会議で図ることにしておいて、全体会議で一つにしようという意見なのか、2つ聞いてみようという意見が出るかです。

(赤間委員)

あまり広げるとアンケートを書く人も悩んでしまいます。

(上野副区長)

あくまでもアンケートを取るにあたって、全体会議に図ります。

(星川部会長)

今、副区長からお話があったように全体会議には、JR 川崎駅周辺と田島地区、大師地区をうまく回遊できるようなルートについてアンケートをとることを図ろうと思います。

(金子課長)

拠点というかポイントだけ（必ず通る場所）を決めて、そこを巡るつもりでルートを考えていったらどうですか。

(上野副区長)

大事なところですが、吉野委員がさっき言ったように今の路線バスと重なり合う部分がかなり出てくると思います。そうすると、なんでコミュニティバスなの、路線バスの修正案ではだめなのという意見が出てくるので、時間的にも議論するのが厳しいので、川崎駅周辺と田島地区と大師地区という3地区の名称があがってきているので、自分達の住んでいる所に関わる、高齢者が出やすい、外出しやすい案をアンケートを使いながら求めていく事で提案したいとどめても良いのではないですか。

(金子課長)

高齢者が外出しやすい、外出するところをイメージしながらというかここここをつなぐキーワードが無いとだめなのではないか。外出するきっかけになるような場所をつないでいくことが必要に思います。

(上野副区長)

そういう意味では、猪熊委員がおっしゃった、バスが通っている大きな通りでなくて、もう少し細い道を通っていく事で路線バスとの違いをつけていくのもあると思います。

(富田委員)

大型バスが入れない狭い道、それが、田島から大師に行くそういうバスは、今無いので。コースとかは、後で考えれば良いと思います。

(星川部会長)

病院で少しひっかかるのは、家に引きこもらないで、町に出ましよう、それにコミュニティバスを使いましようというストーリーだとすると、買い物に出やすいとか。病院は必要に迫られている方は、必ず行きますから。

(金子課長)

麻生区の高石地区のコミュニティバスのルートになっているのは、スーパーです。

(上野副区長)

そういう意味では、アンケートを取る対象者には、高齢者が外出しやすくなるためには、どのようなルートがいいですかとか、高齢者を近くで見ている方、その為にはどうしたらよいかに視点を置くようなアンケートの取り方もいいのかなと思います。

(コンサルタント)

区民会議でどこまで提言・整理するかということになるとと思いますが、細かいバスがどうあるべきかというのは、地域交通の手引きにあるようにその部分の地域の人達が協議会を作って話し合うことになっていますので、具体的なルートは、協議会を作ってからでいいわけで、区民会議で話さなきゃいけない事は、部会長がおっしゃったように家にひきこもらないで、外に出ましょう。外に出ない阻害要因はなんなのかを明らかにすることです。交通手段が乏しいからという答えが沢山出てくれば、新しい交通手段なり、アクセスの方法で対応しましょうといったら、その為に地域の交通街づくりの協議会を立ち上げて下さいねということになれば、その先にコミュニティバスという物が出てくると思います。小田地区から大師に行くニーズがすごく高いのだけれども、なかなか行けないという事が分かれば、何で行けないのかアンケートで探り、それが交通手段であると分かれば、新たな交通手段を作るべきですよという話になっていくと思うので、区民会議では、高齢者を外に出す為になぜ引きこもってしまうのか、なぜ外に出ないのかという所を明確にするという所でも大きな提言になっていく。それをいかに交通まちづくりの協議会をつくりましょうという所につなげていくかという流れではないか。

(金子課長)

まだ、時期が早すぎる、区民会議でバスという物を具体的に提案するためには、議論が足りないということでしょうか。

(コンサルタント)

路線バスと重なるのではないかという部分と路線バス自体にも本数が足りていないとか課題がある気がします。小田と大師間でいうとどれだけ小田に住んでいる人たちが大師に行きたいのかとか、又行きたいのになんで行けていないのかとかを明確にするアンケートをした方が交通まちづくりにつながり、コミュニティバスにつながって行くのではないかと思います。

(吉野委員)

へんなアンケートをとって、路線バスのルート変更すれば、いいのではないかということになると、コミュニティバスはとんでしまいます。コミュニティバスの必要性をきちんとさせるようなもの。

(猪熊委員)

いずれにしても、アンケートは、必要だと思います。ひきこもっている高齢者の方にもバスがあれば出られるよとか、そういうような設問の仕方。このバスが必要だねというった結果が出てくれば、そこから最終的に協議会を立ち上げていく。最終的には、協議会を立ち上げなくてはだめだと思います。この区民会議でどこまでやるかという、区民会議の範囲の問題だと思います。

(金子課長)

アンケートの内容についてバスのルートを決めてここを利用しようという事ではなくて、そのもう少し前の段階のアンケートをすべきではないかというご意見なので、そのこの整理の仕方はどうしますか。

(上野副区長)

今この部会の中で、アンケートはやっていこうよという事については、合意がされているかと思います。全体会の中で報告していくにあたって、区民会議では、高齢者がひきこもりが無いように、外出しやすいような環境整備をする為にコミュニティバスが必要と考えています。ついては、高齢者の為に必要なことについて、アンケートを取りたい。その中の一つにコミュニティバスを整備するとか、いくつかの選択肢、声掛け運動をするとか、デイサービスをするとか、いろんなものを用意して、その上で、コミュニティバスが必要だと思う方について、アンケートを細かくきいていくという手法もあるかと思います。もう一歩前に戻って、設問事項の中に入れていくという手法もあるかもしれない。

(星川部会長)

1年前の話ならわかるのですが、そこは、了解済みです。外出機会を作る時にバスがあると便利とか、バスが無いのが課題ですね。

(上野副区長)

そこは、区民会議の皆さんがそう思っているということで、一般の区民の方がバスが必要だと思っているかはかぎらない。高齢者の引きこもりをより出やすいようにする為には、どうしたらよいかと思いますか。それで、コミュニティバスがあるといいねというのが当然選択しであるわけで、それ以外の手法がもしかしたらあるのかもしれない。当然、前段の中で、区民会議では、議論してコミュニティバスが必要だと考えていますというのを最初に文章として入れたらよいと思います。

(星川部会長)

第3期を立ち上げて、高齢者の課題ってなんだろうといった時に必要な事だと思いますが、全体会議4回やってきた中で中間報告でもコミュニティバスについて具体的なスケジュールを組まれているのに他にはありませんかというたずね方はどうかと思います。

(上野副区長)

コミュニティバスが必要か必要でないかの2つだけの選択肢でいいですか。

(星川部会長)

区民会議レベルでは、コミュニティバスについて検討し進めるのは、合意事項なんですよね。

(上野副区長)

コミュニティバスについての質問を全部、聞くのですよ。聞くのですが、頭のところで、コミュニティバスを必要ないと言った人にそれで、終えてしまっていいですか。

(星川部会長)

区民に対してのアンケートですか。

(上野副区長)

必要ないと言った人は、次に何も答えが出てこない。2つに1つで良いかということです。

(星川部会長)

第3期の任期からするとしょうがないのではないですか。区民会議としては、コミュニティバス導入に向けてスケジュールをこなしていきましようという形をとってきましたが、区民に投げたところ意外とそういうふうに思っていないとしたら希望が無いわけなので、やめるという選択も出てきます。

(上野副区長)

本来の高齢者部会で、引きこもりとか、閉じこもりの高齢者を無くしていこうという本題目的のところは次の議論になる。コミュニティバスはだめだけれど、他のものに議論が進められると思う。その選択肢を残さなくて良いのかどうか。コミュニティバスだけでよいというならそれはそれで皆さんで決定して頂いて構わないと思います。

(星川部会長)

この部会の任期があつて、任期内でできること、アンケートの結果、コミュニティバスが不要だという結果になったところ、高齢者にはまだ、課題があります。そうなったら、次の会議で議論すればいいわけですよ。

(金子課長)

その時の種としてということです。第4期に引き継ぐにあたって、コミュニティバスについてこれだけ審議してきました。だけれど、これだけの人がコミュニティバスはいらないといっている。では、何が必要なのかということをも第3期がアンケートで取ってしまおうということです。それでその結果、第4期にバトンタッチが出来る。その為に問題提起をしてアンケートを占めるというのはどうでしょうか。

(富田委員)

今回の部会でルールをひいて、次の部会に渡せばよいということですね。

(金子課長)

その結果をもらってれば、第4期の委員さん達が、高齢者はこういう課題が未だ根っこにあるんだということで、次の委員さん達のテーマになっていく。その為に別途アンケートをやらなくても、ここで出来ます。

(上野副区長)

せっかくとるアンケートなので、仮にコミュニティバスが必要だねとなった時でも、来期に他に何を議論するかといった際に次に必要なものが、少し見えてくると思います。せっかくアンケート取るのであれば、必要か必要でないかの2択ではなく、欲張ってみてはいかがですかという提案です。

(赤間委員)

コミュニティバスを走らせるという目的で議論してきたと思いますが、それは、大師線に繋がっている路線バスは2本あります。もしコミュニティバスが走るとしたら、京浜急行の大師線につなぐようなものにして頂ければと思います。

(富田委員)

前回の全体会議で、仮に全員が出てきたとしてもなんでコミュニティバスに飛びついちゃうの。路線バスの路線変更を考えないのという事を言っていた人が何人かいらっしやった気がしてます。ここら辺は。コミュニティバスは、行政や営利団体がやると路線バスとは違う、きめ細かいことをやるんですよ。

(猪熊委員)

その中で、細い道に入っていくコミュニティバスということを考えています。

(富田委員)

きめ細かいサービスですよ。4日の全体会議に間に合わせようと議論しているのだから、変更することは出来ないと思います。会議で決めたことを代表者に発表してもらおう。発表して頂いた結果がうまく出なかったとかは、その時に又考えていけば良いのではないのでしょうか。

(猪熊委員)

1つのアンケートを出すまで持っていきたいというのが本音です。副区長さんが言った最後にもう一つ質問で、他にご意見ございますかとかでよろしいかと思えます。

(星川部会長)

次期にということなので聞くというお話なので。1期完結でやらないといけないと思えます。次の方が困ると、宿題を残したくないと思えます。

(金子課長)

その反面、過去の審議がぶつ切り切れて完結してしまったら、次の方は、ゼロから探さないといけないことになります。それよりは、ある程度そんなテーマもあったねという方が取り組みやすいと思えます。

(星川部会長)

折角、区民アンケートを取る機会なので、この機会を利用して、高齢者の声をなんとか拾いたいということであれば、本題から外れてその他として、高齢者の皆さんが感じていること。この会議も1年目は、皆さんから高齢者としての課題について出してもらっているので、そこと区民というところにミスマッチがあるかもしれないので。拾っておきたいということですね。

(金子課長)

そうすると審議も進みが早い。シャトルバスいりませんかコミュニティバスいりませんかとの答えだけだと、折角審議してきたものがどこかにいってしまう。

(星川部会長)

その他として拾って色々出てきたら、あなたたち2年間何をやってきたのか、区民の声を拾わずに区民の課題解決をするためにここでやってきていた訳ですから。的はずれの議論をしていたわけですから。

(上野副区長)

それは、そんなことないです。高齢者の方の課題というのは、いろんな課題があるので、全部をいっぺんにこの場で議論というのは、難しいと思います。

(金子課長)

現実的に高齢者に関する環境づくりということで、課題解決は最初沢山出ていました。その中から絞り込んで今回は、これでやっていこうというところで、話し合いをしているので、残っているものが上がってくると思います。だとしたら、次の方には、そういう視点でやって頂けたらと思います。

(上野副区長)

先程、富田委員がおっしゃっていた、10月4日の日にどういう事を発表しておこうということで、決めて頂けると良いと思います。

(星川部会長)

アンケートを取るということで、それには、ルートは示さないということ。コミュニティバスのコース設定としては、川崎駅の東口を中心にしたところで、ポイントは入れた方が良いのか、入れない方が良いのか。川崎病院などだと思います。小田地区と大師地区がうまくアクセス出来る様な事も検討していきたい。アンケートの取り方なんですけど、これについてまだ、誰からもご意見いただけていませんが。前回の議論では、吉野委員が全部の町会にきいたらどうかというご意見でした。

(吉野委員)

町内会組織には、聞いた方がきめ細かいアンケートがとれそうな気がします。

(星川部会長)

勿論、町会・自治会にはご協力いただけるとは思いますが、従業者というのもTMOでは、来街者調査もしているが、その辺りはどうでしょうか。

(猪熊委員)

病院や市役所を対象にした際に来街者は使い方は出来ないかと思います。来街者は、商店街向けで。一般向けに来街者はいないのではないのでしょうか。

(星川部会長)

従業者というのは、企業市民ということですが、その辺りはどうですか。

(猪熊委員)

高齢者を対象にすると1本で宜しいのではないのでしょうか。

(上野副区長)

今日、欠席されている服部委員が老人クラブ連合会ということで、いらっしゃるので、町内会と老人クラブとかなり重なっている部分があるので、むしろ老人クラブの方々にアンケートをとるほうがずっと進めやすいのかなと思います。

(吉野委員)

老人クラブの組織率が意外に少ないと思ったのです。

(上野副区長)

今日ないので、どれ位老人クラブがあって、どの位の人達にそういったアンケートが出来るかというのは、分からないので、そういう意味では、町内会や老人クラブ等に発表されたら良いと思います。

(金子課長)

今日・明日中にバスルートが出来るわけではないので、その辺は、若い人達にもアンケートを回した方が良いと思います。

(上野副区長)

こういう所にとった方が良いというのは、全体会議でお尋ねになった方がよろしいかもしれません。ちょっと若い層にアンケートをとるということであれば、青少年指導員ですとか、体育指導委員ですとか、地域の中で活動していらっしゃる方々。高齢者に目がいたり、色々な見方をさせていただいているので、民生員児童委員さんもそうかもしれません。ご協力いただくことも良いのかもしれません。

(金子課長)

全体会議で、どういうところにアンケートを取ったらよいか、図ってみてはいかがですか。

(星川部会長)

総体としては、区民にアンケートを取るという事ですね。

(金子課長)

どこに目をつけるかです。全体会議には、いろんな団体から来ている委員さんが沢山いるので。実際に外出しにくい方やそういう状態を見ている方ですかね。

(星川部会長)

後は、調査時期ですかね。次回の部会というのは、いつ頃でしたっけ。11月にフォーラムがありますね。アンケートとフォーラムの兼ね合いは、どういうふうに考えていきますか。

(金子課長)

フォーラムでは、全体会議に図った内容を網羅したものを発表する。時期的に区民会議の委員の公募をかける時期なので、区民会議では、こういうことをやっているとアピールする。どんな感じでフォーラムをやるのかまだ、白紙です。

(星川部会長)

アンケートをして、出来るところまで、第3期でやろうと思います。

(上野副区長)

そういう意味では、アンケートは、一番遅くても1月中には実施しないと最終的な報告の中に皆さんの意見が出にくくなってしまいます。

(星川部会長)

出来れば、年内にということですね。

(上野副区長)

12月か1月ですね。年内にアンケートの内容を決定して1月に各地域の中で、新年会とかあるので、そういった時にアンケートをお願いする方法もあるかと思いますので、アンケートの内容は、年内という事でいかがですか。その日程で部会を組んでいただきたいと思います。

(吉野委員)

このアンケート結果で、高齢者部会として提案したいという所までですね。

(星川部会長)

アンケートの実際出来そうな時期にスケジュールを事務局で調整してほしいと思います。

以上